

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年6月20日(金)

雑感

4月の終わり頃から、我が家はメタカの誕生が続いている。義父のメダカを貰い受けて、息子達と私が育てているメダカだ。いつの間にか藻に卵を産み付けているので、それを素手で取っていく。卵は案外強いもので、少しづつ力の力では潰れない。自然に育つ。最近メダカは空前のブームらしい。何でも、違う種類のメダカを交配させ違う種類を作り出すとそれが数万円で売れるのだそう。高いものは百万円を超えるというから驚く。我が家のメダカも交配が進み、何とも言えない模様のメダカがタライの中を乱舞している。眺めながら、癒しの時間となっている。

《雑感》「五省」行動を振り返る指針

私は書道を嗜むからといって、形式美というものに強く惹かれます。芸術作品に於ては、人間の行動様式も同じ視点で見てもいいと思います。先日、自衛隊の訓練風景を目撃することがあったのですが、駆け足5分前行動、礼儀作法、指揮命令系統の組織等、自衛隊の訓練に学ぶ行動様式は多いのです。集団行動の美、形式美は現代人が最も苦手としているものの一つです。自衛隊に限らず、警察や消防などの訓練は同じようなことが要求されます。私にはそのような姿が「当たり前」の姿に見えます。それは、社会集団の中で生きるために必要なことだと私は思います。

数年前、佐世保市に行くことがありまして、海上自衛隊佐世保資料館を見学しました。そこに「五省」という教える掲げてありました。現在も海上自衛隊の方々が、「五省」を行動の拠り所にしていくのだと聞いています。

五省（ごせい）

- 一、至誠（せいせい）に性もどる勿（な）かりしか … 真心に反する点はなかったか
- 一、言行（ぎんぎょう）に恥（は）ずる勿（な）かりしか … 言行不一致な点はなかったか
- 一、氣力（きりき）に欠（か）くる勿（な）かりしか … 精神力は十分であったか
- 一、努力（どりょく）に慥（しん）み勿（な）かりしか … 十分に努力したか
- 一、不精（ふせい）に亘（わた）る勿（な）かりしか … 最後まで十分に取り組んだか

まず、「至誠」、当時の「至誠」は国に対しての奉仕の精神だと考えられますが、現代においては自分の仕事で人と接する時の真心、誠実さを意味しているのではないかと思います。人に誠実であることは非常に大切なことです。

「言行」は私自身、常に自戒する場面が多いこの一つです。近年、多くの不祥事を耳にしますが、恥ずかしい行動をし、それが言葉と一致しているならば、不祥事など起るのようがありません。もし恥ずべきことをしている自分が恥しむという心を失っているとしたら、人間としては如何なものでしょうか。

苦境にあるときはたれしも「氣力」がなくなりがちであり、「努力」を重ねても成果が出ない、ムタなことをしているのではないかと気が持たないに陥りやすいものです。逆境にあるとき、いっそ氣力を奮い立たせることができるか、努力できるかが成長の分かれ目と言えますね。

「不精」は、私にとっては一番身近な反省すべきことです。面倒くさいことを先送りしたり、今できることを先に送ったり…。不精も時には良いかと思つて自分もいますが、度が過ぎてしまつては無意味です。

五省は私達現代人にとって反省、自戒する上で貴重な示唆を与えていると思えてなりません。海上自衛隊でも使われているこの先人の教え、皆さんはこのように解釈されますか。

シリーズ「自分を語る」#20

小学校高学年から中学生にかけて、心身の成長や行動・交友範囲の広がりに伴い、多くのことに興味をもち始め、必然的に趣味が広がっていきました。当時、興味のあったものをひとつ紹介します。音楽鑑賞、映画鑑賞、写真撮影、天文、野球、テニス…。挙げればきりがありませんが、どれも深くのめり込めてはありませんでした。このうち、お金や時間、場所、仲間が必要だったりするものが殆どで、中学生の私には手が出ないものもありました。音楽鑑賞は前のお話したとおりで、友達に頼ることが多かったのです。映画も一年に一本観られればいい方でした。また、天体望遠鏡なんて高くて買えず、もともと「写真」に興味があって天体写真を撮りたい「イコール天体望遠鏡」だったので、専門的に勉強しようと思ったわけでもありません。でも、興味をもつと色々調べたくなるもので、その頃たくさん星座や星雲、星団を覚えしました。また、写真については家にあったカメラで写真を撮るのでも構いません。友達の家にもフロッピーディスクの現像設備があったので、そこで現像、焼き付けの仕方を教えてもらっていました。模型は小学校の頃から大好きで、特に「フットボール」は作りまじだね。当時、色を塗っていたのですが、あの頃は絵の具にシンナーを混ぜて塗っていました。塗料が高かったからです。母がやっていた内職の道具にシンナーがあったので、それを拝借したのです。後でこびりついて取れないことになるのですが…。テニスも友達がいっていたから始めたのですが、これもテニスコートが遠くにあったため、また「ラケット買って」とおねだりしても、毎回却下されていましたので…。今でも「浅く」ですがやっています。特にカメラは仕事でも役に立ちます。

中学1年の頃は、学校での生活はあまり楽しいと感じたことはなかったのですが、2年生に進級してから雰囲気はガラッと変わりました。小学校からずっと付き合っていた友達と同じクラスになったからです。この時のクラス替えのおかげで、私は中学校時代が一番楽しかったと感じています。いわゆる、親友ができたと言える時期です。親友の一人に名古屋大学で教授として教鞭を振るつ奴がいます。なかなか親友と呼べる友達は、そう簡単にはできません。私は奴をきめ、二人しかいません。この二人しか、当時の話し言葉で話しかけられないからです。「二人」を多いと多すぎないことあるかは、個人の捉え方次第ですが、私には掛け替えのない大切な友達です。こういった繋がりを求めるのも、思春期ならではの思いですね。こんな友達ができる、勉強の力、恋愛の力、家族の力、将来の力、色々なことを話しかけて、家族以外でも何となく安心できる場所となります。今でもこの仲間たちと飲みに行くときは、家族の力、仕事の力、話題も多岐に亘ります。たまにケンカもしますが、お盆と正月は、1週間くらいと飲むのがとても楽しいイベントになっています。(つづ)